会員生協のとりくみ

みやぎ生活協同組合

■　希望の明日へ　協同のちからで

みやぎ生協は、東日本大震災の復興のため、被災者、地域産業復興支援を幅広くすすめました。

特に、ボランティアセンターでの「ふれあいお茶会」は、これまでの累計が 420 回（2011 年 5 月からの累計 1,200 回）を超え、のべ 1 万人（2011 年 5 月からの累計 3 万 7 千人）を超える被災者の皆さんが参加、手づくり商品カタログを 4 回発行、共同購入個配手数料の被災者支援サービス（配達料の減額）利用者は 1 万人、「ふれあい便」や移動販売車「せいきょう便」によるお買い物支援をすすめました。

石巻市三反走でのふれあい喫茶

一方、地域の産業復興支援の「食のみやぎ復興ネットワーク」は、232 団体に広がり 58 にのぼるプロジェクトで、約 7 億円の商品供給高、地元商品の開発と普及をひろげました。そして、農業経営に意欲的に取り組み、優れた功績を挙げた農家や団体を表彰する、全国農業協同組合中央会とＮＨＫ主催の「日本農業賞」の「食の架け橋の部」で奨励賞を受賞しました。

震災から 3 年が経過しますが、復興は途上です。被災者や、地域産業復興への取り組みを継続しながら、さらに復興支援の役割を強めます。

（機関運営課課長　稲葉勝美）

生活協同組合あいコープみやぎ

■　誰もが自分らしく過ごせる「居場所」づくりを！

震災後、被災地では福祉サービスがダウンし、多くのお年寄りや障がい者が孤立し困窮しました。そんな人たちが健やかに過ごせる「居場所」を作ろうと、石巻市渡波の民家を借りて、「地域サロン」が立ち上がり、あいコープは食材や備品等を提供し支援してきました。

今期、その地域サロン「よってがいん」が NPO 法人・介護事業所として認可を受け、地域に根付いた継続的事業として自立への一歩を踏み出しました。あいコープもこれに参画し、今後も食材提供や組合員ボランティアなどの支援を続けていきます。

「よってがいん」が目指すのは、単に建物としての「介護施設」を造ることではなく、まず地域との関係を作り、地域コミュニティと繋がることによって、要介護者や障がい者が（そうでない人も）一人ひとり自分に合った過ごし方が出来る「居場所」を作ることです。地域コミュニティが一旦断ち切られた被災地でそれを目指したのです。

そして、あいコープは「よってがいん」のような「居場所」

よってがいん利用者と
あいコープ組合員でお昼の準備

作りを、石巻以外の場所でも少しずつ進めていきたいと考えています。

（理事　鈴木智子）

会員生協のとりくみ

食のみやぎ復興ネットワーク

■　2013 年度の取り組みや今後の活動について

食のみやぎ復興ネットワークではこれまで、被災生産者への作業支援とボランティア活動、支援金や支援物資の窓口、商品活動を通じた地域支援活動に取り組んできました。

そのなかでも、津波被害を受けた農地での生産再開に頑張る生産者を応援する「仙台白菜プロジェクト」「なたねプロジェクト」「わたりのそばプロジェクト」には、大きな関心が集まりました。2014 年度もこの活動を継続し、宮城の復興を応援し続けます。

仙台の伝統作物「仙台白菜」の復活を通じて、宮城の農業復興を応援する「仙台はくさいプロジェクト」には今年、震災後初めて栽培する作物に白菜を選んだ亘理町と旧矢本町の生産者も加わるなど、活動の場を更に拡げました。

仙台白菜の収穫

なたねプロジェクト「菜の花を見る会」

被災した岩沼の農地で、なたねの栽培に取り組む生産者を応援する「なたねプロジェクト」では 5 種類の商品を開発し、その販売やおすすめ、利用などを通じて結びついた方の数は 33,000 人を超えました。

震災被害を乗り越えて、新しいそばの産地づくりにチャレンジする亘理の生産者を応援する「わたりのそばプロジェクト」で開発した復興亘理そばは、短期間で 6,400 パックを超える利用が集まりました。地元の亘理郡内では世帯の 7.8%がこのソバを食べてお年越しをするなど、地域の方々に支持される商品になりました。

復興亘理そばの試食会

参加団体による「ふるまい企画」

ネットワークでは、参加団体による被災地支援活動にも継続的に取り組んでいます。このなかでも「ふるまい企画」は、これまでのべ609団体が507企画を実施しました。ふるまい企画を通じて宮城県産原料を使用したメニューの提案、新しい食べ方の提案も行われています。様々な団体の持つ技術と知恵を紡いで活動は進んでいます。

（みやぎ生協店舗商品本部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局長　藤田孝）

会員生協のとりくみ

松島医療生活協同組合

■　『誓』、そして『前進』

東日本大震災から3年が過ぎました。松島医療生協は、全国の仲間のご支援と期待を受けて、事業所の再建が進み、組合活動も活性化してきています。

昨年10月、旧「なるせの郷」の再建事業である「まつしまの郷」が完成し、複合的な介護事業所として利用者・組合員さんの要望に応えています。更に、津波の塩害被害の松島海岸診療所（医科・歯科）の大改修も3月末に終了します。

介護事業複合施設「まつしまの郷」

松島医療生協は、大津波で施設のみならず利用者・職員の尊い命を失っており、心の傷の真の回復には、更に長い時間を要するものと思っています。今年3月11日（火）に「まつしまの郷」の庭に、二度と地震、津波、自然災害で犠牲者を出さない決意を示す、松島医療生協の『誓』の碑石を建立しました。

時間の経過とともに被災地の報道も減少し、人々の記憶から薄れてきています。被災地の今を認識して頂き、被災地を思い、支援継続をお願いする取り組みとして、3月16日（日）に全国の医療生協の仲間も参加し、東松島市（野蒜、牛網地域）の在宅被災者宅約300戸への訪問と、仮設住宅2ヶ所での炊き出しを計画しています。

（専務理事　青井克夫）

みやぎ県南医療生活協同組合

■　広がる被災地での支援活動

2012年9月に開設した「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」（柴田町）には、近畿ブロックの医療生協の職員が常駐し、日々、被災地での要求や支援者の受け入れ、山元町での支援団体との調整や全国への発信を行いました。常駐者が派遣されたことで、2013年度も県南医療生協としての支援活動を、順調に継続することができました。

山元町内の仮設集会所、坂元地区や花釜地区で近畿ブロックの医療生協や山元町 NPO 団体と協同で、健康チェックや脳いきいきトレーニング、茶話会などを毎月定例で行いました。

10月には、旧山下駅前広場で「やまもと花釜秋まつり」を、様々な形で全国の医療生協から支援を受け、500 人以上の参加で盛大に開催しました。

2013年12月からは、被災者の方の要求に応え、新山下駅災害公営住宅集会所や牛橋区民会館での茶話会や健康サロンを、定期的に開催しています。

2014年は、近畿ブロックからの不定期での支援活動を受け入れながら、被災者のみなさんの思いに寄り添い、県南医療生協単独での支援活動を、仮設住宅や沿岸部地域、災害公営住宅地域で継続していきます。

「楽しく歌と脳トレ」
（新山下駅災害公営住宅集会所にて）

「輪になって健康体操」
（山元町坂元老人憩いの家にて）

（常務理事　児玉芳江）

会員生協のとりくみ

東北大学生活協同組合

■　お買い物による被災地復興支援活動

2013 年度は、学習支援等のボランティア活動をはじめ、様々な復興支援活動を行いました。

現地でお買いものをすることで被災地を応援する企画には、26 人の参加がありました。まず塩釜仲卸市場で、自分達で新鮮な魚介類を選び海鮮丼をつくりました。次に向かった石巻では、食堂で「震災復興メニュー」として提供しているかつお節の工場を訪問しました。工場では震災当時の様子を伺い、実際に避難した高台まで歩きました。参加者からは「おいしくて、考えさせられて、復興に少し貢献できる企画でした」と感想が寄せられています。

2011 年震災時に在学していた学生たちは 2014 年 3 月に卒業し、今後ますます、キャンパス内では震災の記憶が風化していく恐れがあります。

引き続き、組合員のみなさんとともに被災地のために何ができるのかを考えながら被災地支援活動を取り組んでいきます。

（理事会室長　峰田優一）

「被災地視察」
石巻のかつお節工場にて（上）
震災当時に避難した高台にて（下）

大学生協みやぎインターカレッジコープ

■　東日本大震災からの再生方針

【2013 年度主な取り組み】

1．全キャンパスで東日本大震災募金 15 万円を集めて、東北全体で取り組んだ「未来の高校生募金」（宮城・岩手・福島県内の高校 40 余校、約 1,000 万円）を促進しました。

2．宮城県内岩沼・閖上・荒浜地区の被災地訪問を実施し「震災を忘れない・震災を伝える」取り組みを進めてきました。

【2014 年活動予定】

1．大学・高専と共に、大学・高専との災害時協定の具体化（特に、防災とボランティア養成）を進めます。

2．組合員に引き続き「東日本大震災の実態・復旧・再生に向けた取り組みを知らせ・考える・行動する」取り組みを進めます。今年は、宮城県 11 月・福島県 6 月訪問、各キャンパスで震災写真パネル展示の予定です。

（専務理事　青柳範明）

「被災地訪問」 荒浜（左）・閖上（右）

会員生協のとりくみ

大学生協東北事業連合

■　全国の大学生と共に、東北復興・再生のための活動を継続！

大学生協東北ブロック・東北事業連合は、七ヶ浜、南三陸での復興支援ボランティアや岩沼、閖上、荒浜、七ヶ浜、南相馬などへの被災地訪問などの取組みを行っています。被災地訪問の感想文には「住民の意見は各々違ってはいるものの、～中略～行政が住民の声をよく聞く必要性や、柔軟な対応が望まれているのを感じた」とありました。

また、「未来の大学生応援募金」を全国に呼びかけ、お取引先様や全国の大学生協組合員の皆様からお寄せいただいた募金を、2013年3月から12月にかけ被災影響の大きかった43校に贈りました（総額1,075万円）。

七ヶ浜での学習支援ボランティア後、みんなでクリスマス会
（2013年12月22日）

募金を贈呈した高校を対象に行ったアンケートでは、震災により過疎化に拍車がかかった沿岸部の小規模小中校や、仮設などでの生活を余儀なくされ、思うように遊んだり運動できない子供達の様子が切々と綴られ、また、義援金への感謝の言葉が多数寄せられています。

大学生協は、これからも全国の大学生と共に、被災地の復興を願い、東北復興・再生のための活動を継続してまいります。

（全国大学生活協同組合連合会
大学生協東北ブロック
齋藤庄元）

みやぎ仙南農業協同組合

■　JAみやぎ仙南丸森地区青年部の取り組み

JAみやぎ仙南丸森地区青年部は、農業体験を通じて食や農に関心を持ってもらおうと、食農教育活動の一環として丸森町筆甫（ひっぽ）の筆甫保育所と連携し、園児たちと畑での野菜作りを実施しています。震災以降、プランターでの野菜作りに留まっていましたが、昨年から園児たちと畑での野菜作りを再開しました。

保育園の野菜畑

昨年6月21日（金）同地区青年部は園児たちと一緒に、同保育所の畑に、カボチャやナス、ピーマン、インゲン等の苗を定植しました。久しぶりの畑での作業に、園児たちは喜んだ様子で取り組んでいました。8月28日（水）には、育てた野菜を収穫し、その野菜を使って「夏野菜クッキング教室」を開催し、カレーを作りました。園児たちは「頑張って育てた野菜が大きくなって嬉しい」と話し、笑顔を浮かべていました。完成したカレーは参加者全員で食し、自分たちが作った野菜の味に満足げな様子でした。

畑に苗を植える園児たち

まだ震災の影響が残っていますが、今後も地域のＪＡとして、このような活動を続けていきます。

会員生協のとりくみ

宮城労働者共済生活協同組合

■　東日本大震災を風化させない取り組み

震災から３年。現在でも全労済では被災者対応を最優先課題として、職員一丸となって取り組んでいます。

この間、東日本大震災復興支援（社会貢献）活動として『復興支援コンサート』『やなせたかしのメルヘン絵本の読み聞かせ会』の開催や防災・減災をテーマとした『防災カフェ in みやぎ』や『復興支援の講演及びシンポジウム』を行ってまいりました。

直近では、2 月 17 日（月）に「東日本大震災を風化させない取り組み」として、被災地の子どもたちが暮らす町・地域の環境保全を目的に、気仙沼市立馬籠小学校の校庭で記念植樹と式典を実施し、子どもたちが行う森づくりの活動に対する支援を行いました。

これからも「最後のお一人まで」被災者対応に取り組むとともに、さまざまな形で防災・減災につながる活動を継続してまいります。

（専務理事　畑山耕造）

気仙沼市立馬籠小学校の校庭で記念植樹
（2 月17日）

宮城県高齢者生活協同組合

■　地域のサロン「ひなたぼっこ石巻」でクリスマス会

2013 年 12 月 19 日、地域サロン「ひなたぼっこ石巻」の花壇に、埼玉の方から贈られた「支援の薔薇」が小さなつぼみをつけました。うす曇の天候でしたが、お部屋の中はペレットストーブであったかです。

大津波でいろいろご苦労された皆さんが集まってきました。テーブルの上には、手作りお菓子や漬物などご馳走が並びます。美味しいケーキやお菓子を食べ、カラオケも歌うクリスマス会です。

会の途中に、三重高齢者生協からダンボール９箱が届きました。何だろう？クリスマス人形や毛糸の靴下やマフラーに巾着袋、どれもこれも手作りの支援物資がどっさりと。さっそく分けて頂きました。こうした継続的な支援が今でも続いています。

この日は参加者みんなが１曲は歌いました

高齢協連合会の復興対策会議は、今年３月 30 日（日）に「震災体験と復興を語り伝えるつどい被災３年企画」を、石巻鹿妻南コミュニティハウスで開催することを決めました。宮城高齢協は、これからも全国の皆さんと協力しながら、被災者・被災地支援の活動を取り組んで行きたいと思っています。

（愛称：支えあい生協宮城
専務理事　山田栄作）

苦労はあるが歌って乗りこえよう